

## IR・SD推進室が実施している教学IRの主な内容

IR・SD推進室において調査分析した学修成果、学生アンケート等については、関連する委員会や大学方針を決定する会議体へ報告を行い、各部門における状況把握・改善検討に活用している。

主な分析事例、改善事例は以下のとおりである。

### 1. 主な調査・分析内容

#### 1) 学修成果関連調査

- ・学年ごと GPA 分布状況<分析結果概要添付>、修得単位数等の把握・分析、教育の質向上委員会が実施・集計する卒業時到達目標アンケート結果の把握・分析
- ・入試区分ごと、面接結果ごとの入学後成績、国家試験合否状況、学籍異動等の調査・分析

#### 2) 学修行動調査

学生の学修時間や学修への意欲等の調査・分析<分析結果概要添付>

#### 3) 授業評価アンケート結果

教育の質向上委員会が実施・集計する授業評価アンケート結果の総合評価の分析  
<分析結果概要添付>

#### 4) 学生満足度調査

教育内容・教育方法、学修支援、図書館、施設関係等に関する学生満足度を調査・分析。(その結果を各種委員会等へ通知、各種委員会において対応・改善策を検討し、学生へ開示)

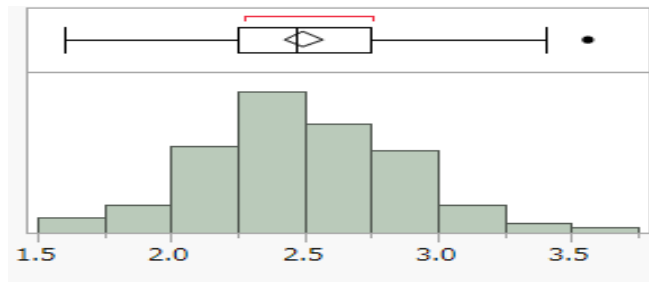
### 2. 主な分析結果

#### 1) 学内試験結果：GPA分布調査

本学では、学生の学習意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と適切な学修指導に資することを目的に、各授業科目の成績評価に対応してグレード・ポイント（「GP」）を付与して計算する1単位当たりのGPの平均値（GPA）を採用しています。本学では、通常の5段階評価（10点区切り）に基づく計算でなく、より厳格な数値の算出が可能となるように1点単位でのGPAを計算しています。（例：78点のGPは $(78-55) \div 10 = 2.3$ ）

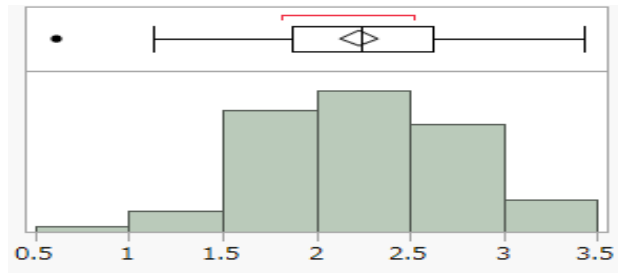
以下に、令和三年度に各学年（看護学部）が履修した必修科目のGPAの分布状況を示します。令和二年度の結果と比較すると、全体的に中央値がやや減少しました。（令和二年度中央値：学部1年 2.5、学部2年 2.7、学部3年 2.5、学部4年 2.9）また、各学年の科目内容にも影響しますが、上級学年になるにつれて、中央値が上昇する傾向が見られました。なお、各学年により履修科目が異なるため、学年ごとの学力状況を比較するデータではありません。

令和三年度 1 年生GPA 分布 (1 年次必修科目)



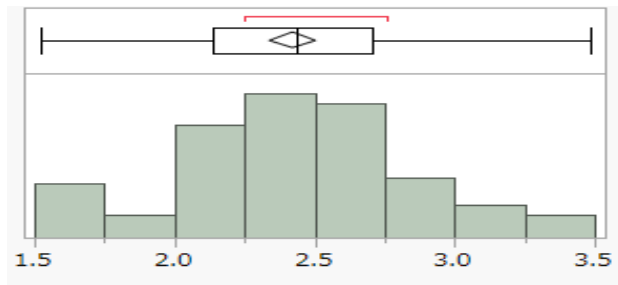
最大値	3.6
四分位点	2.7
中央値	2.5
四分位点	2.2
最小値	1.6

令和三年度 2 年生 GPA 分布 (2 年次必修科目)



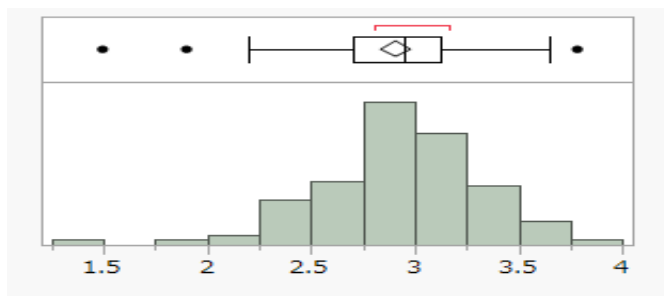
最大値	3.4
四分位点	2.6
中央値	2.2
四分位点	1.9
最小値	0.6

令和三年度3年生GPA分布 (3年次前期必修科目)



最大値	3.5
四分位点	2.7
中央値	2.4
四分位点	2.1
最小値	1.5

令和三年度4年生GPA分布 (3年後期～4年次科目必修科目)



最大値	3.8
四分位点	3.1
中央値	2.9
四分位点	2.7
最小値	1.5

<学修行動調査>

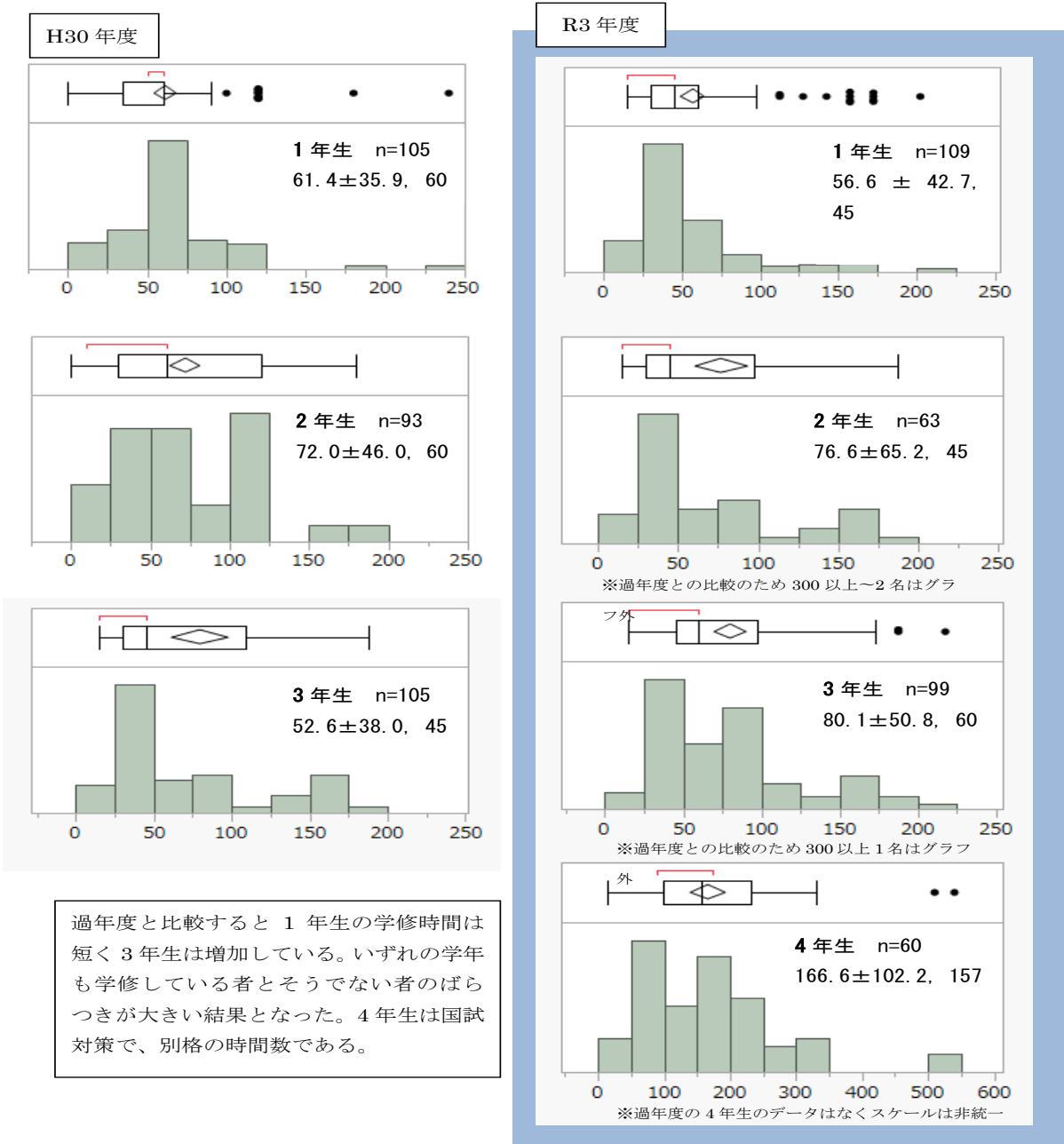
1. 自己学修時間の学年比較及び過年度比較

本学では、学生の学修への意欲や取組み状況を把握し、その結果を学修支援に役立てるため学修行動調査を実施しています。調査の一項目として、授業以外の「自己学修時間(分)」についても調査を実施しています。学年別に集計した結果(令和3年10月調査)は以下のとおりです。

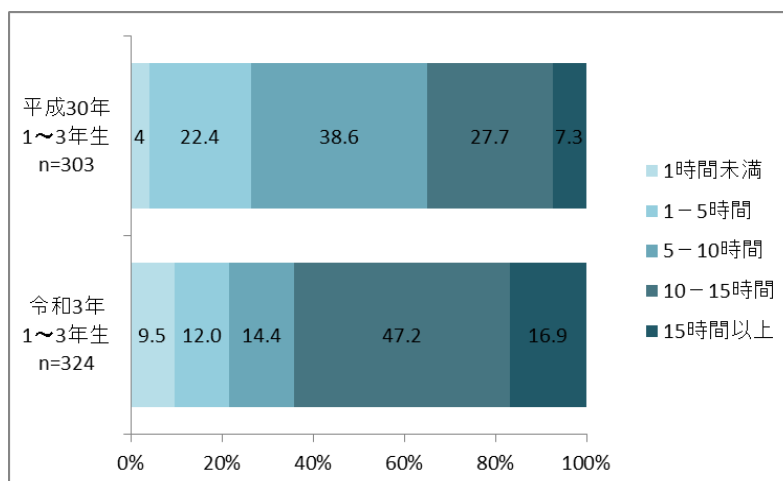
※平成30年度はコロナ前で対面授業、令和3年度はコロナ禍により遠隔及び対面授業

学修行動調査における授業以外の1日あたりの自己学修時間(分)

※ヒストグラムの横軸は時間(分)、縦軸は度数を表す



## 1 週間平均自己学習時間 全学生（1～3年生）年度比較



平成30年度は5～10時間が最も多かったが、令和3年度では10～15時間が最も多く、全体的に自己学修時間は増加している。コロナ禍の影響で、自宅における自己学修の機会の増加にもつながっている可能性がある。一方で、1時間未満の学生は増えていることから、学修習慣が身につけていない学生にとっては、自律的な学修への支援が必要であろう。

## 2. 学修行動得点（看護学部1～3年生）年度比較

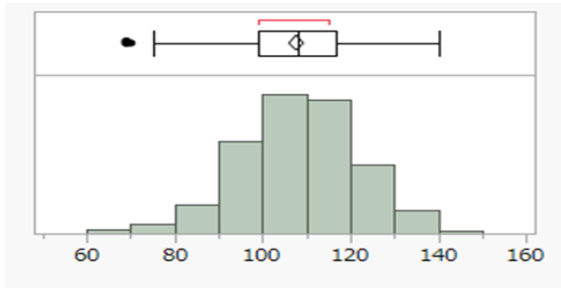
学修行動（例：学ぶことが好き、将来に対する明確な目標を持っている、など全32項目）に関する調査結果は以下のとおりです（各質問項目の結果は略）。学修行動得点は、点数が高いほうが望ましい学修態度や行動がとれていることを示します。

平成30年度と比較して、学修行動得点の平均は高かったものの、ばらつきが大きい傾向にありました。項目別にみると、最も異なる傾向にあって学修行動や態度が低かったのは「13.図書館をよく利用する」と「30.図書館にない本の探し方を知っている」であり、コロナ禍で図書館の休館が続いたことが要因と考えられます。図書館では蔵書検索及び文献検索についてオンラインを中心としたガイダンスを実施し、学外からの文献アクセスを可能としました。その結果、データベースへのアクセス数はコロナ禍前より増加しました（前年度の約4割増）。今後は休館中においても図書館資料が活用でき、学修行動は改善していくものと思われまます。

令和3年度は遠隔授業がメインであったにもかかわらず、21.授業中の集中、22.授業中の発言、7.予習復習の項目は比較的高く、「8.授業や自己学修で学力がついている」と感じている者が増え、また、「15.先生から紹介された文献や本には必ず目を通す」、「20.教科書でわからない言葉があったら他のツールで調べる」、「23.わからないところがあれば、後で友人や先生に聞きに行く」などが比較的高く、自宅中心の学修環境であるからこそ、学生自身が努力し、学び続けようとする姿勢がうかがえました。

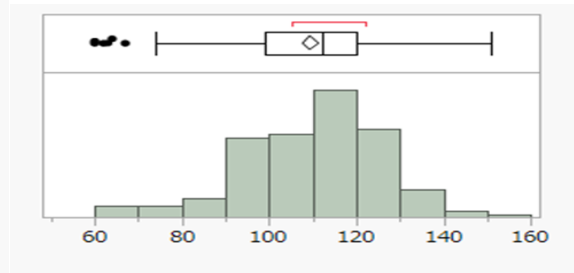
比較してばらつきが大きくなったのは、「26.課題が複数ある時にうまくこなせない」と「28.学修計画を立てて取り組んでいる」であり、コロナ禍で、より自律的な学修を求められる環境において、学修行動面の格差が広がっていることがうかがえました。

平成30年度



令和3年度

(全32項目の集計結果)



### <授業評価アンケート結果>

本学では、教育内容・教育方法の改善を目的に全科目について学生による授業評価アンケートを実施しています。アンケートは12の質問項目から構成され、今回、科目の総合評価である「本講義に対する総合評価はどうでしたか」に対する集計結果（令和三年度調査；看護学部集計分）を公表（表1）します。

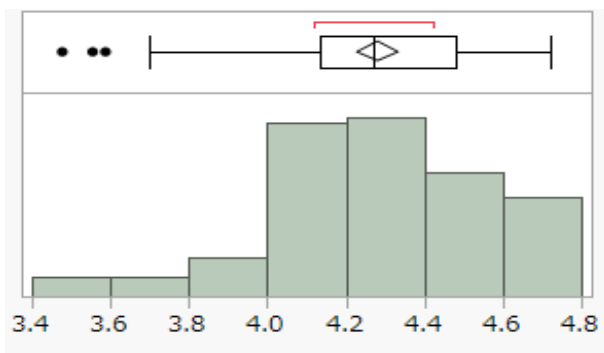
令和二年度の総合評価結果（令和二年度実績：平均値4.14、中央値4.14（表2））と比較し、若干の上昇となりましたが、過年度と比較しても、ほぼ同程度の結果となり、また、評価4は「よい」を意味しており、平均・中央値とも4「よい」を超える結果となりました。

各科目単位の結果を科目責任者に返却し、その結果を踏まえ「考察と課題」を科目責任者が提出することで授業改善に繋げていきます。

(表1)

『本講義に対する総合評価はどうでしたか』に対する全科目（実習科目を除く）の集計結果（令和3年度）

5. 非常に優れている 4. よい 3. 普通 2. やや劣る 1. よくない

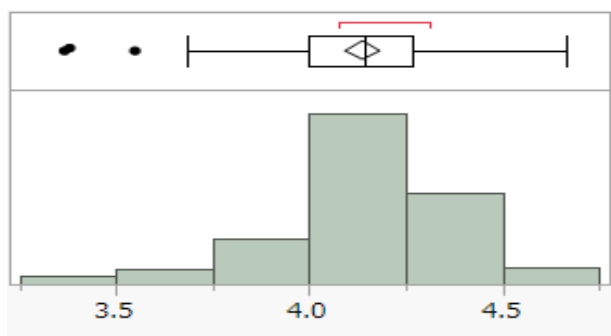


科目数	105
平均	4.28
標準偏差	0.27
中央値	4.27
範囲	3.48- 4.72

(表2)

『本講義に対する総合評価はどうでしたか』に対する全科目（実習科目を除く）の集計結果（令和2年度）

5. 非常に優れている 4. よい 3. 普通 2. やや劣る 1. よくない



科目数	106
平均	4.14
標準偏差	0.23
中央値	4.14
範囲	3.37- 4.67

### 3. 主な改善事例

- ・学修行動調査（課題重複時の対応困難さ）等の結果を受け、多重課題とならないよう、課題提示状況一覧の作成と学内教員における情報共有を企画、また、コロナ禍、図書館利用に関する調査結果が低下することも予想され、図書館において、学外からの文献へのアクセス可能なシステムを開始（結果としてアクセス数はコロナ禍前より増加）。
- ・学生満足度調査結果（低学年からの就職・進学支援の希望）を受け、低学年からのキャリアガイダンス（看護専門職になるための今後の学修への動機付けを含む）の実施。
- ・入試区分別の学修成果（特定入試区分における入学後高リスク<学籍異動、国試合否状況等※詳細分析結果は学外非公表>）を踏まえた、当該入試区分定数の見直し。